

令和7年度 学校評価表【自己評価】					三次市立甲奴小学校											
経営理念(ミッション・ビジョン)					＜学校教育目標＞ 「文武両道」 すすんで きたえ みがき のびる ～社会の変化に対応できる、心豊かでたくましい子どもの育成～ ＜めざす学校像＞ ○すすんで子供の主体性を伸ばす学校 ○きたえ・みがき.....個々の持ち味を発揮させる学校 ○のびる.....得意なことを引出し、自信を持たせる学校					＜甲奴中学校区のめざす子供像＞ 「ふるさと甲奴を誇りに思い、自らの未来を切り拓いていく子供」 ＜甲奴小のめざす子供像＞ 何事にも全力を尽くし「文武両道」をめざす子供 ☆自分が好き・・・夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供 ☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供 ☆甲奴が好き・・・身の回りに目を向け、地域や地域の方から学び、表現できる子供						
評価計画															学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	7月			12月			自己評価		評価	コメント	
						達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価	結果の分析	改善策			
確かな学力の育成	全国水準の学力をつける (知識・技能・思考力・判断力・表現力、 学びに向かう力の育成)	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・相互に授業参観し、児童が主体的に 学び合う授業作りを行う	・指導者が互いに授業を見合い、児童が 主体的に学習に取り組む授業の充実度。 (授業評価シートによる)【長手】	80%	*	*	*				・国、算の評価テストについては、目標値の70%を 上回った。しかし、5割程度の児童もいるため個別指 導も必要である。 ・進捗状況を交流する等計画的にパワーアップタイム の取り組みを進めた結果、指導者評価の実施度は、 概ね100%となった。	・評価テストについては、目標値を上回り基礎学力が向上した。 ・個人・学年差があり、個別指導及び児童実態に合った指 導を継続して行う。 ・全国学テの分析を活かし、共通して取り組む事柄は確実 に実施していく。 ・今後も計算力や漢字の書き取りなど、パワーアップタイム を計画的に実施する中でその定着を図る。 ・実施回数・内容・目標設定の仕方など指導者同士で共通 認識をもち確実に実施する。	4	・目標値の設定も適正であ ると思う。 ・教育目標に基づいた重点 目標や数値目標が明確に 設定されており、取り組み も具体的である。	
			・パワーアップタイム(補充学習)を活用 し、基礎・基本の向上を図った授業改善 を行う	・評価テスト(国語・算数)で、どちらも得点 が80点を超える児童の割合【カ石】	国70% 算70%	国80% 算78%	114% 111%	A A								
		○対話のある 授業づくりによる思考力・ 判断力・表現 力の育成	・ファイナルタスクを意識した授業づくり 及び授業実践を行う	・課題発見、解決学習の展開で、ファイナ ルタスクを明確にした授業の充実度。(指 導者同士の授業評価シートによる) ・児童同士が多様に関わり合い対話のある 授業の充実度。(指導者同士の授業評価 シートによる)【高石】	80%	*	*	*				・全学級で課題発見、課題解決型の学習を仕組み、児童 の学力の向上を図る取組を行なった。 ・児童同士の関わり合いを促すために、【学習規律「重点 プラン」】として「うなずく」を意識して取り組み、相手の話を 受け止めたり聞こうとしたりする意識を高めた。 ・学び方朝会で、甲奴小学校で高めていこうとする資質・ 能力を児童と共有したことにより、授業を受けるのではなく 授業に積極的に参加しようとする意識を高める取り組み を行った。	・教師同士で授業を参観し合う機会を学期に1回以上設ける。 ・担任間で授業する学年を交換する取組を通して、児童実態把 握や学年に応じた授業づくりを推進する。 ・県小学校体育研究大会を通して、学習者起点の深い学びのある 授業づくりを推進し、体育が好きな児童100%をめざす。 ・【学習規律「重点プラン」】を「うなずく」から「認める」「高め合う」 とし、全員が安心して発言したり協力したりして学習に取り組め る環境づくりを行っていく。	4	・「授業評価シート」による評 価ができていなかったので 今後実施することに期待す る。	
			○学びに向か う力の育成	・児童の知的好奇心を喚起する学習課題 を設定する ・子どもたちの学び合いを行うための手 立てを工夫し実践する	・体育科授業が好きと言える児童の割合。 (児童アンケート) ・体育科授業(授業づくり)が、好きと言える 指導者の割合。【高石】 ・深い学びが行えるよう場や教材、ICT機 器の活用等の工夫した授業の充実度(指 導者同士の授業評価シートによる)【長 明・高橋】	児童・教頭 100%	児98% 指98%	98%	A				・全児童が、体育科に対して肯定的な意識をもつこと ができている。今後も、各領域の特性や身に付ける べき技能についての研究を深め、全領域でも数値が 上向くようにしていく。 ・全学年で、ICT機器を活用した授業を展開してい る。	・児童が体育科が好きと言えるように、授業改善(魅力ある ファイナルタスクの設定や対話がある授業づくり)を推進す る。	4	適正に評価されている。
豊かな心の育成	規範意識を 高め、思いや りの心を育成 する	○規律ある学 校生活 あいさつ 返事 整理整頓 無言掃除 無言移動 無言集合	・一斉下校、朝会時等における全体指 導 ・挨拶・返事は、「じぶんから・だれにで ても、いつでも」「先言後礼」「整理整頓」を 徹底 ・「挨拶運動」や「掃除の仕方朝会」等、 児童会で主体的に取組ませ、自治能力 を高める	・「あいさつ(先言後礼)・返事・整理整頓・ 無言掃除・無言移動・無言集合」に関する 生活アンケートで肯定的に自己評価する 児童の割合 ・教職員の見取り調査の割合 【中島・野曽原・八幡】	80%	96%	120%	A				・挨拶、返事、無言集合、整理整頓、チャイム席、4月 から意識して取り組む児童が多く見られ、主体的 に取り組んでいる。また、無言掃除の木にシールを貼る など具体物を活用した取り組みもできた。 ・教師の見取りは、目標値を達成している。各学級で の指導や全校集会の場での指導が繰り返されている ためと考える。	・来年度に向けて挨拶プラスワンの取組を推進する。 ・他学年が児童が評価したり担任の先生が他のクラスを評 価したりする取組を推進する。	4	適正に評価されている。	
			○思いやりの 心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活 指導 ・道徳の時間の充実 ・縦割り班遊び等を通して異学年との関 わりを深める	・「思いやりの心」に関する生活アンケート で肯定的に評価する児童の割合【野曽原】 ・「思いやりの心」育成に関する教職員の 見取り調査の割合・保護者アンケート結果 (4段階評価の平均値)【八幡】	80%	98%	123%	A				・児童の肯定的評価がとても高く、相手に対して思い やりのある行動を意識して生活することができている。 ・にこにこボックスの活用、全学年で取り組み、友 達の良い所を見つけている。 ・指導者の見取り、保護者アンケートの結果を見 ても、肯定的に評価している割合が多く見られる。	・引き続き、にこにこボックスを活用したり、児童の良い所を 全校や学級で紹介したりする取組を継続する。 ・相手を思いやる言葉遣いを常態化するため、よい言葉か けをしている児童を称賛するなど学校をあげて取組を推進 する。 ・道徳の時間を活用し、思いやりの心を育成していく。	4	適正に評価されている。
		○体力の向上		・外遊びの推奨 ・月・水・金曜日に元気づけタイム(業間 運動)を設定し、課題克服運動プログラ ムを実施 ・水泳記録会、マラソン大会等、自己目 標の設定 ・対外的な陸上記録会等に積極的に参 加 ・県小学校体育研究大会開催に向け て、体力づくり活動を充実させる	・「運動遊び」に関するアンケートでの肯定 的に自己評価する児童の割合【中島】 ・新体力テストの結果において、前年度の 重点種目が、全国平均値を上回る項目の 割合 【中島・八幡】 ・水泳記録会、マラソン大会において自己 目標を達成した児童の割合【野曽原・八 幡】	80%	94%	118%	A				・外遊びや元気づけタイムの運動が楽しいと答えた児童 が94%となった。またアウトメディアデーを活用してお家 で元気づけタイムを実施する等家庭と連携した取組もでき た。 ・体力テストの重点課題は長座体前屈である。男子 69.6%、女子75.3%と目標を達成することができた が、柔軟には課題がある。特に男子は70%を下回っ ていることから新たな取組が必要である。 ・水泳記録会の目標達成割合は84%となり、目標値 を超えた。 ・マラソン大会についても児童それぞれの状況に応じ た目標設定が行えるようにしたい。	・担任の先生が入り替わる「new元気づけタイム」を実施する。児 童を様々な視点で見て、組織として関わることができる。本校 の最終目標100%を目指し今後も様々な新たな取組を導入する。 元気づけタイムの中にペアやグループでできる柔軟運動を 取り入れる。	4	・学力の向上や体力の向上 等、多くの目標が計画通り 進んでいる。
			○健康的で規 則正しい生活 の実践	・朝食、生活リズムについて全体指導を する ・生活リズムアンケートによる基本的生 活習慣の実態把握 ・アウトメディアデーの実施	・生活リズムアンケートで、肯定的に評価 する児童の割合【岸・柚木】 ・生活リズムアンケートのふり返りにおい て、アウトメディアに取り組めた肯定的な 評価をした児童の割合【岸】	80%	91%	114%	A				・「決めた時刻に寝る・起きる」は目標値は達成できたが、 決めた時間に寝ることのできない児童がみられた。 ・朝食の喫食率は概ね100%。今後も重要性を指導する。 ・メディアの視聴時間や学習を始める時刻について課題 がある。 ・どの学年も前向きに取り組んでいた。『おうちで元 気づけタイム』(体力づくり)を実施し、保護者の方々 から好評であった。 ・熱中症対策のため小まめに水分を補給させたり、 登下校の際の日傘を推奨したりした。今年度熱中症 と思われる児童は0人。	・今後も2点を重点目標とし、児童が主体的に取り組めるよ う、保健体育委員会による生活パワーアップ朝会を行う。 ・食について興味をもたせるため、おうちでできるかんたん レシピを朝会等で紹介する。 ・アウトメディアデーで児童がどのように過ごしているかを紹 介したり、児童が保護者等と楽しく体を動かせるようなふれ あい遊び等に取り組んでいきたい。	4	適正に評価されている。
信頼される学校	安全・安心で 信頼される学 校をめざす	○危機管理の 徹底と指導力 の向上	・統合校として児童の安全な環境づくり を推進	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケ ートでの、肯定的評価【教頭】	80%	95%	119%	A				・秋、冬に向け、感染症(コロナやインフルエンザ等)予防に 努める。児童の体調に関わって情報を職員全員で共有し、 危機意識をもって対応する。保護者と連携を密にし体調維 持に努める。	・結果に安心することなく今後も緊張感をもちつつ取り組みを継 続する。 ・結果を職員全員で周知し、計画した取り組みだけでなく新しい 取組や新たな課題にも対応できるよう研修を行う。	4	適正に評価されている。	
			・働き方改革による「子どもと向き合う時 間」確保(あゆみの2学期制を継続)	・教職員アンケートでの、肯定的評価【教 頭】	80%	100%	125%	A				・「協働し仕事を進め、互いにチーム作りに努めている 」項目において肯定的評価100%。暮会では職員 全員で児童交流を行い、学習や生活上の課題につ いて改善策を考えている。	・教務部で推進する「問いをもつ力」「考えぬく力」「関わり合う力」 の育成に向けて授業観察したり、職員への声かけを行う。 ・児童や保護者の抱える困り感に目を向けて、職員職員で共有 し、解決していけるよう「チーム甲奴」体制づくりを継続する。	4	・ICT活動や家庭学習と の連携、生活習慣の改 善など改善策が明確に 示されている。	
			・授業研究等における指導力の向上	・指導力の向上について、保護者アンケ ートでの、肯定的評価【教頭】	80%	94%	118%	A				・保護者アンケート「教職員は、子供が進んで学び合 えるよう工夫して指導を行っている。」「子供は授業が 分かりやすいと言っている。」では肯定的評価がそれ ぞれ95.3%、93%。	・結果に安心することなく今後も緊張感をもちつつ取り組みを継 続する。 ・結果を職員全員で周知し、計画した取り組みだけでなく新しい 取組や新たな課題にも対応できるよう研修を行う。	4	・全体として計画に沿っ て順調に進んでおり、児 童の成長が感じられる。	
			・コミュニティ・スクールの推進	・学校運営協議委員会委員等による学校運 営のアンケートでの肯定的評価【教頭】	80%	100%	125%	A				・評価委員すべての方に、6項目で4(：自己評価は適 正である)の評価をしてもらった。 ・授業評価シートによる授業評価が未実施だったので 、今後評価し改善に繋げてほしいとの要望があっ た。	・結果に安心することなく今後も緊張感をもちつつ取り組みを継 続する。 ・結果を職員全員で周知し、計画した取り組みだけでなく新しい 取組や新たな課題にも対応できるよう研修を行う。	4		

(自己評価) 達成度＝達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60